



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 | (鉄建) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.4.25 No. 3206

## 第23回臨時委員会開催

# 夏季物販、処分分に全力を

# 五月月の激闘を高くかに総括

第二三回臨時委員会は、四月二〇日、労働者福祉センターにおいて開催され、清算事業団闘争の中間総括とJR当局による不当・不法な処分策動を断じて許さない体制の構築にむけて全体が火の玉となって立ちあがることを決定した。あわせて、争議団闘争の勝利へむけた財政確立と、日本労働運動の再生への指針を示した。

後の四ヶ月間の大奮闘で盛りひらかれた。ついに、「四・一」をのりこえた永続化かちとり、JR体制をすくなくぐり、告発し、JR内部の力関係さえ転換する力量と展望を導きだしたのである。

賞金まで支払うという前代未聞の暴挙、さらには、首切りを要求した集会の開催、臨時大会まで開くという信じがたい反労働者として鈍化している。つまり、闘いの前進が、彼らをしてそこまで追いこんだということである。

地平に確信をもち、団結をしっかりと打ち固め、今後ともに前進しよう。という主旨で訴えられた。委員会は、方針提起をう

け活発な討論をおこなった。われわれは、事業団の仲間十二名を守り、四〇名争議団を支えきり、今かけられている不当処分策動を粉砕しぬくためにひきつづき総力でたたかうことを決定した。

冒頭、あいさつに立った中野委員長は、第一に、「分割・民営化」攻撃を最も象徴する産物であった清算事業団労働者を、真綿で締めあげることく揺さぶることで、その存在を霧散霧消できると踏んでいた。しかし、事業団の仲間が不屈に闘いぬき、又、「分割・民営化」の矛盾があまりにも大きかったこともあり、各地方労働委員会の救済命令を次々と勝ちとり、採用差別、不当労働行為の実態を明らかにしてきたのである。こうしたことを背景として、われわれは、国労中央のゆがんだ方針を突きぬけ三月末ストをつくりだしてきた。その重大な突破口が十二・五ストであり、その



【物販運動、処分策動粉碎へうって出ることを確認】

臨時委員会終了後、同福祉センターにおいて「清算事業団激励会」が開催され、一〇〇名をこえる組合員、来賓が出席し、和気あいあい、なごやかな中にも当局への怒りを新たにし、仲間と家族を最後の勝利まで支えぬくことを確認した。

事業団の仲間一人ひとりから心情や決意が語られ、それに応えるように出身支部の代表からも次々と決意表明が行われた。国家総がかりの攻撃にも屈せず、家族合わせれば数千、数万という大規模な争議団が誕生し、「四・一」を突きぬけたのである。彼らの存在と闘いがどれほど労働者・人民を鼓舞激励し



不当解雇者 激励会

不当解雇者 激励

怒りも新たに12名と家族を支えぬく決意を固める